

第5回

京都都市緑化
写真コンクール
入賞作品集

(平成元年度)

主 旨

緑とオープンスペースは、大気の浄化・気温の調節など良好な環境づくりに大切な役割をはたしているほか、潤いのある生活環境の確保、レクリエーションの場の提供など多くの役割を担っており、安全で快適な都市環境の形成に欠くことのできないものです。

このような緑の重要性と都市緑化の必要性に対する理解を深めるために、10月を「都市緑化月間」と定め、今年度も全国各地で緑と公園に関するさまざまな行事が行われました。

京都では、この「都市緑化月間」の行事のひとつとして「都市の緑と公園」「緑化ひとくふう」などを主題とした「第5回京都都市緑化写真コンクール」を行い、多数の応募作品の中から優秀な作品28点を入賞作品として選びました。

京都府都市計画協会
京 都 府・京 都 市
(社)京都府造園建設業協会

入賞作品一覧

京 都 府 知 事 賞	「緑の散歩道」	中川 敦夫
京 都 市 長 賞	「街角の緑」	橋本 健治
(社)京都府造園建設業協会賞		
	「ガーデン、ハウス」	林 茂
優秀賞(特別賞)	「もうひとつの緑」	前川 敏彦
優 秀 賞 1	「緑の中」	斉藤 栄一
2	「花と緑に囲まれて」	関本 信夫
3	「陽光」	神内 宏輝
4	「緑のまち京都」	吉村 正明
佳 作	「緑と小供の楽園地」	川崎 良一
(順不同)	「けやき並木に鈴が行く」	田中 賢司
	「街路樹」	貞廣 哲也
	「どの花がいいかな？」	一井 由清
	「花と緑」	阪口 征生
	「近代ビルと緑の調和」	加藤 正司
	「色深是秋」	伊藤 照夫
	「散策」	古川 越子
	「小陰(こかげ)」	古川 和男
	「憩の場」	平野喜久夫
	(無題)	高橋 昭
	「幹線道路」	平瀬 実
	「憩いの広場」	久保田 茂
	「緑の木をかこんで」	藤本 正則
	「緑の樹の下で一休み」	沼田 国夫
	「緑と噴水」	河村 時雄
	「五月の公園」	千原 正己
	「並んだ緑」	西 義雄
	「木陰の案内板」	道木 敏雄
	「日曜の朝」	河田 京子

—京都府知事賞—



「緑の散歩道」 中川 敦夫

—京都市長賞—



「街角の緑」 橋本 健治

—(社)京都府造園建設業協会会長賞—

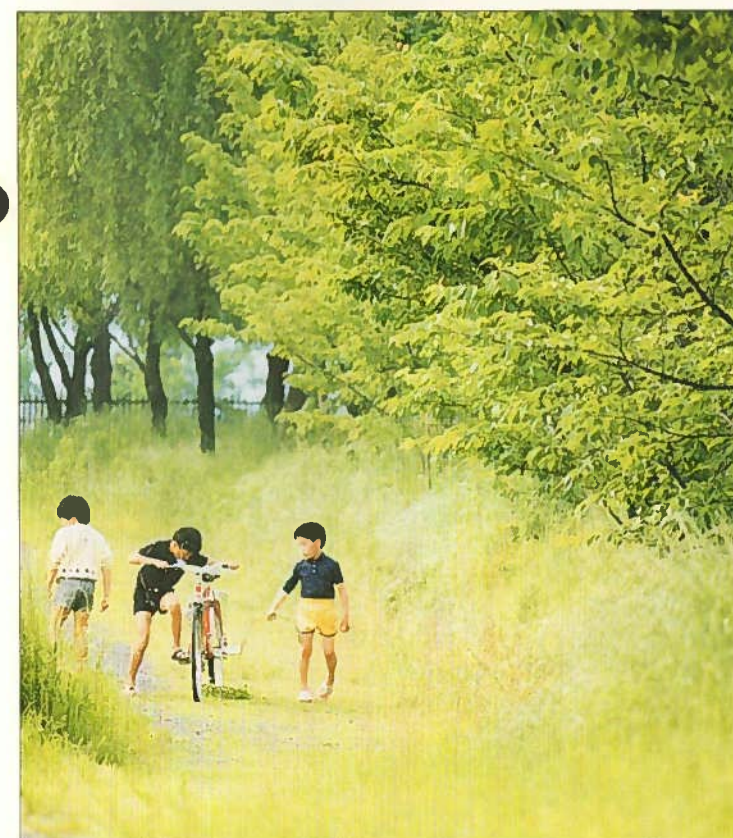


「ガーデン、ハウス」 林 茂

—優秀賞—



「もうひとつの緑」
前川敏彦



「緑の中」
斉藤栄一

—優秀賞—



「花と緑に囲まれて」 関本信夫



「陽光」 神内宏輝

—優秀賞—



「緑のまち京都」
吉村正明

—佳作—



「憩いの広場」 久保田 茂



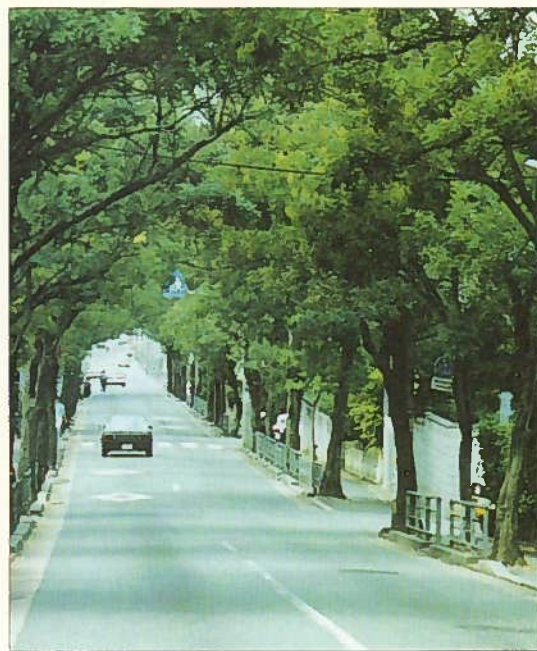
「憩の場」 平野 喜久夫

—佳作—

「緑と小供の楽園地」
川崎良一



「どの花がいいかな？」
一井由清



「街路樹」 貞廣哲也



「緑の樹の下で一休み」 沼田国夫

—佳作—

「けやき並木に鉾が行く」
田中賢司

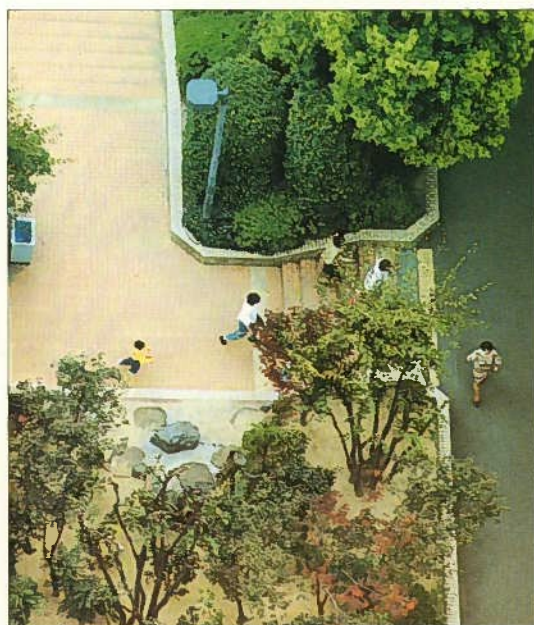


「近代ビルと緑の調和」(2枚組) 加藤正司



「木陰の案内板」
道木敏雄

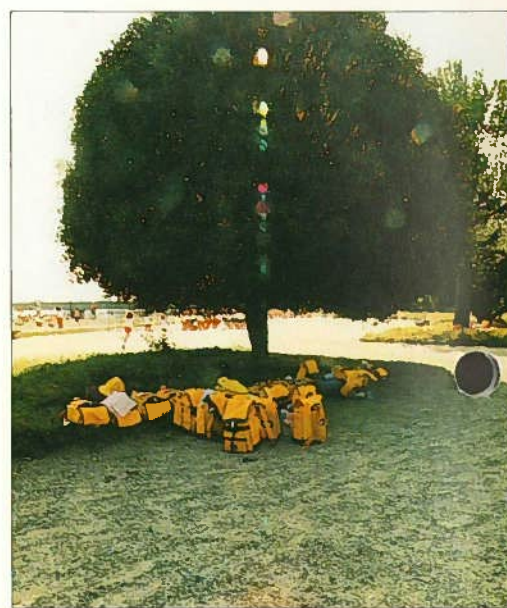
—佳作—



「色深是秋」伊藤照夫



「緑の木をかこんで」藤本正則



「小陰(こかげ)」古川和男



「花と緑」阪口征生

—佳作—



「散策」古川越子



(無題) 高橋 昭



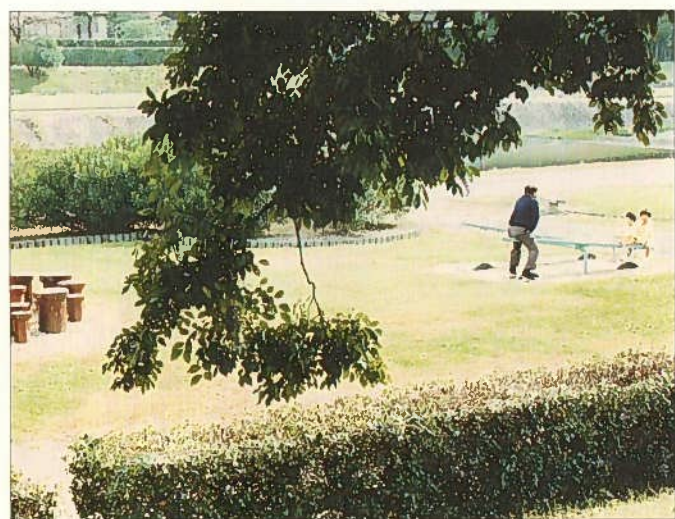
「幹線道路」平瀬 実



「五月の公園」千原正己

—佳作—

「緑と噴水」
河村時雄



「日曜の朝」
河田京子



「並んだ緑」
西 義雄

第5回京都都市緑化写真コンクール 講評

古都保存文化写真協会会長

写真作家 小林 文 司

当コンクールも今年で5回を重ね、応募者も多少の新陳代謝はあっても、ベテランクラスが常連化している様に思えます。彼らは、主題をよくのみ込み、広く歩き回り積極的に作品作りにあたられた思いが、作品によく表現されているので、好感がもてました。全体的にみて前年に比べワンステップ上昇していることを認めます。

毎年の事です、ベテランの作品は何点も重賞しますので新人登竜の意味あいもあって、あえて重賞をさけ一人一賞とし、ずい分差はありますが、新人の比較的良いものを入賞させた次第です。新人の大半がそうですが、協会が毎年配布される作品集の内容をずばり真似ないで、次年度は大いに奮起して独自の創意で作品作りを期待します。

私が思うに、確かにこのコンクールのテーマはむづかしいですね。まして京都は古都、特に都心は佇まいの保存もあって、近隣の神戸等にみる斬新な緑化の色彩感覚も造型感覚をも思いきって取り入れることの出来ない悩みがあります。応募作品の構図から見て上京、中京、下京あたりの取材の作品は何となく野暮ったく、南区あたりで撮った作品が上位を占めているデータが出ています

今年は一点、画面に一木一草何も写っていないのにガード下に、花と緑のメルヘン的なコンクリートの壁画を背景に二組の母子を配した作品は、作者の意図をよくくみ取る事ができ注目に値する異色な作品です。

今、地球上でも我が国に於いても伐採体制と植林体制のサイクルが、なかなかうまく具合にかみ合わない時に、都市緑化も大変なプロジェクトだと思います。京都市は幸いど真ん中に世界的な常緑樹のある緑陰豊富な京都御苑があるのですが、何故か市民はあまり寄りつかない、従って御苑の憩いの作品が出てこないのは残念です。

京都御所は宮内庁、京都御苑は環境庁、市民はもっともっと御苑を身近かに利用すべきです。あの素晴らしい環境はわれわれ京都市民のものですぞ。

- 主催 / 京都府都市計画協会
- 共催 / 京都府・京都市・(社)京都府造園建設業協会
- 後援 / 建設省、京都府公園公社、京都府市長会、京都府町村会、
京都新聞社、KBS京都、NHK京都放送局
- 協賛 / 京都府造園組合連合会、京都府写真材料商業組合、
富士写真フィルム(株)、日本造園修景協会京都府支部 (順不同)